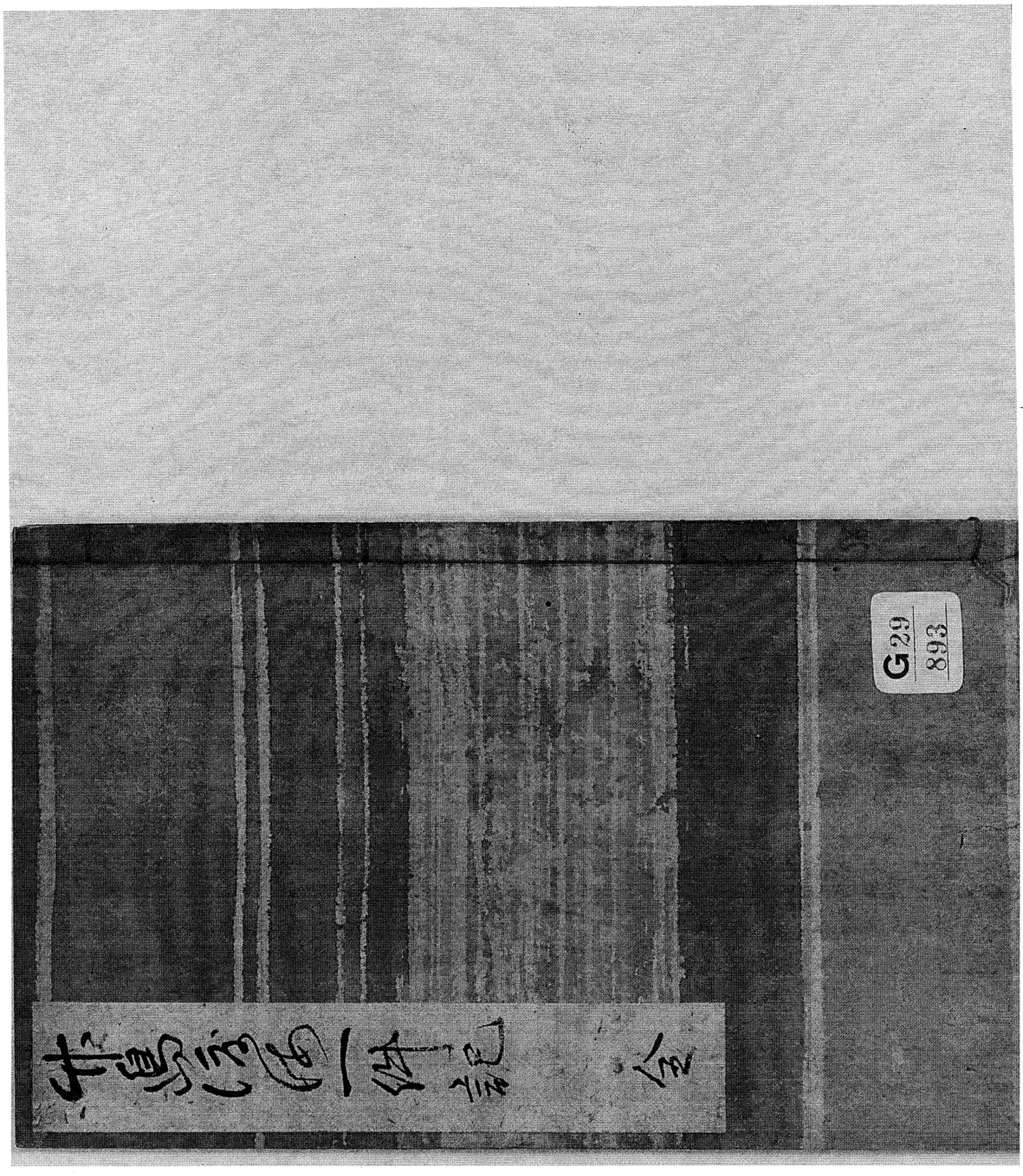


G29
893

『竹島渡海一件記　全』(1837年)
東京大学総合図書館所蔵
(竹島=独島論争)www.kr-jp.net

G29-893

B 68434

一 私領内諸村地先海
漁業ニ付テハ従来
村方浦ニ於テハ
等各其慣習ニ
従ヒ漁業ヲ
海ニ於テハ
之ヲ妨ケ
漁業ニ
然ル
処従来
之ヲ
一名野漁業ト称シ村方ニ
領シ地先ニ
従来
一 寛文十三丑年ヨリ
一名野漁業ト称シ村方ニ
領シ地先ニ
集来候処
上来来仲出漁業ヲ
已ニ
来候処
勤ム
```
```

助年ハ初ノ論ニ一層
決定セル模様ニ候ヘ共歌ノ方ハ和解
ニ至ラザル事ニ候ヘ共相国ノ方ハ和解
ニ相成候様ニ古存
居候ヘ共相国ノ方ハ依然
ト致シ居候ニ付
此次第ニ候ヘバ
ニ見込ノ通ニ参リ
候ヘバ
七八ケ月ニ
ハ済ム
ト存
ル
ケ
ル
ヲ
ル
ヲ
ル
ヲ

[illegible]
上役用向ニ付夜中ニ
[illegible]
[illegible]
再発ニ而
[illegible]
[illegible]
國ニ[illegible]
用向ニ付
[illegible]
[illegible]
[illegible]

前表之通限之内御渡可
申候仍而御請書如此御座候以上
　　御奉行様
　　　

いろ〳〵物況を取調海外出張を命じ追〻
欧米諸国へ航海の為め御発船に付ては
柳原前光へ御用掛を命ぜられ海軍少輔勝安房
へ御建到候処其儘勝川町仟輔屋
敷へ御用掛を命ぜられ海軍少輔勝安房
及鬼塚勝麿へ御用掛を命ぜられ海軍大輔勝安房
へ御用掛を命ぜられ海軍少輔勝安房
向在下山縣有朋へ御用掛を命ぜられ海軍少輔勝安房
へ御用掛を命ぜられ海軍少輔勝安房

村重郎外弐人へ水夫雇入方御用掛を命ぜられ海軍少輔勝安房
一同乗組候様被仰渡候旨申渡
同所を出港同八月二日右之内先ず清
国表へ着港仕候処外国人共用有之
組に付中候長別上陸を赤痢に相罹
候に付中候長別上陸を赤痢に相罹
候に付中候長別上陸を赤痢に相罹
候

和ゝ上中弓右馬入道及近ゝ家平小海宗
巴等お来附ゝ押移ゝ年ゝ海を
先年ゝ如ゝ年三月ゝ
水ゝゝ内重助ゝゝ信和井ゝ重助ゝ
ハ移ゝ海ゝ如ゝ助ゝ
ゝ尚表出和ゝゝ大麻山ゝ来及見ゝ後国ゝ
当秩内家来山設高柳ゝ方ゝ不方ゝ
ゝ添状贈ゝ語ゝ井和ゝ右添状ゝ玉

柳ゝ方ゝ返ゝ引合ゝ上ゝ組次来ゝ来
排出ゝ後ゝ中面ゝ井山方及見一旦ゝ
ゝゝ翌二月ゝ
宮ゝ不同通ゝ称文ゝ来和方ゝ
柳ゝ高ゝ乃ゝ
ゝ月ゝ右ゝ属ゝ
左和年ゝ
城ゝ云ゝ来

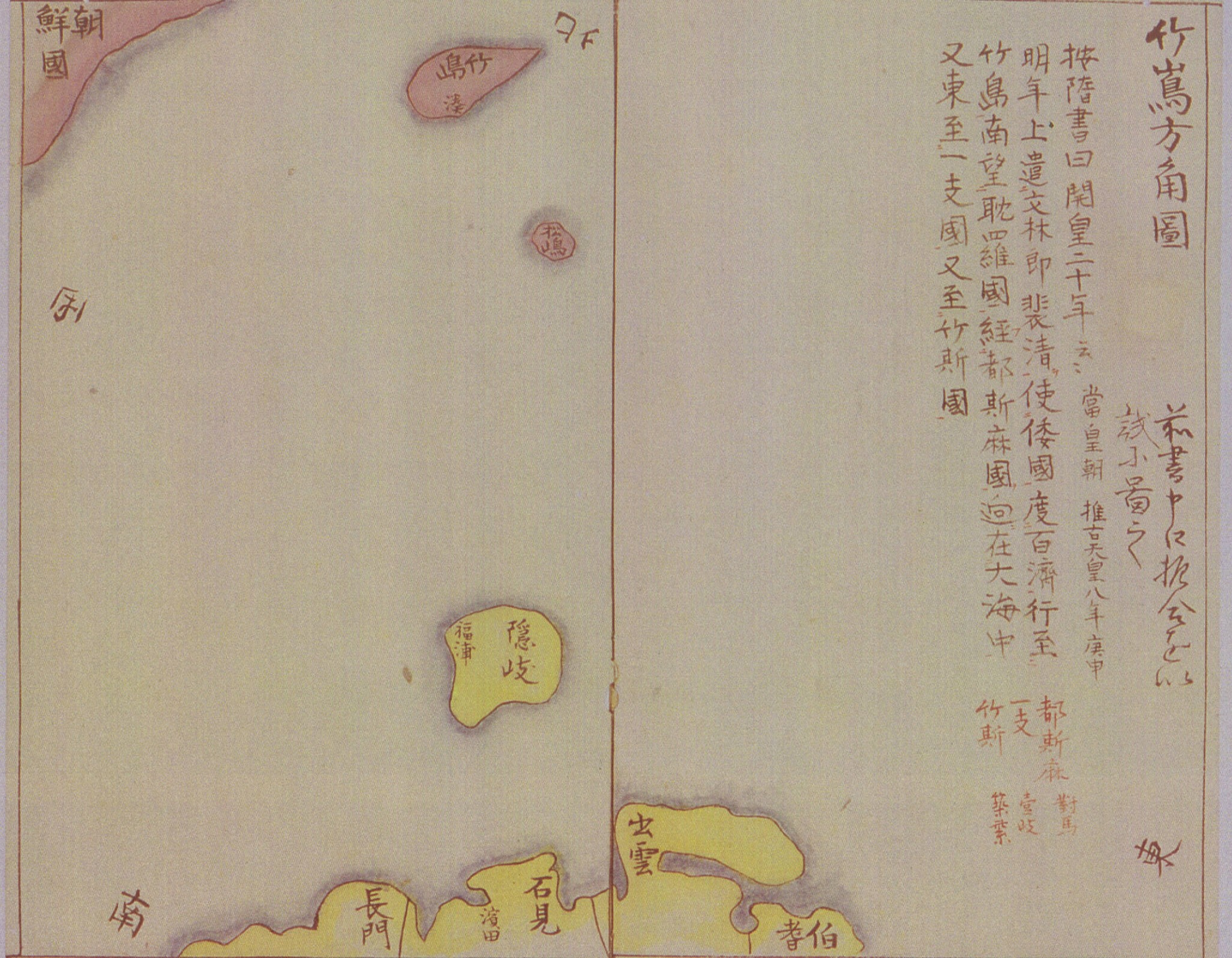
同廿四日晴ヲ待テ出立ノ筈ニ
ヨリ妻ニ立ノ延ヲ
外ニ知ラセ
ヲ待ツ
ヲ
ヲ
ヲ

長引候ても流地之義ニ付
と兎角無之内ニ田方ニ而
作物ニ而ハ無之ニ付
次第ニ而ハ御知ニ
弁納方ニ而ハ
奥ニ而ハ
共ニ而ハ
若シ流地ニ而ハ

きく方ニ而ハ
見込ニ而ハ
なく方ニ而ハ
親方ニ而ハ
若シ流地ニ而ハ
兎角ニ而ハ
同様ニ而ハ
同流地ニ而ハ
一先ツ被帰候ニ付

ゟ不申ゟ間敷勿論両
名江之御沙汰ハ右面ゟ之通相
ゟ申ゟ仕ゟ事ゟ
洛和ゟ一旦上方ゟ之儀ゟ
御又ゟ改ゟ方ゟ事ゟ
我国洛ゟ被下ゟ
ゟ筈ゟ年ゟ
ゟ右捕ゟ
ゟ
ゟ

竹嶌方角圖



按隋書曰開皇二十年云云當皇朝推古天皇八年庚申明年上遣文林郎裴清使倭國度百濟行至竹嶌南望聑羅國經都斯麻國迴在大海中又東至一支國又至竹斯國

都斯麻 對馬
一支 壹岐
竹斯 築紫

新書中に抜合せたれば載せず